

高退協ニュース

No.227 2020年10月31日発行
高知高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目1-10
TEL 088(822)6822
TEL 088(822)6822
TEL 088(822)6822

高知高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内2丁目1-10
高知城ホール高教組気付
連絡先 TEL 088(822)6822
TEL 088(822)6822
TEL 088(822)6822
郵便振替口座 0165002511893

内容濃ゆい！ 高退協学習会

宮地忠美

十月三日(土) 午後一時半～三時半、高知城ホールにて「高退協学習会」がありました。例年、「夏季学習会」として実施してきましたが、今年度はコロナ禍等の事情を考慮して、十月の実施となりました。学習会の後、講師を囲んでの懇親会もありました。当日の参加者数は、学習会は三十六名で懇親会は二十九名でした。内容は、高退協会員の講師による講演二本と報告一本、現職からの報告一本がありました。

最初は、鎌田伸一さんによる講演「生活困窮者支援にかかわって」NPO法人「はすのは」の活動が、鎌田さんが退職後かかわっている相談活動の一つで、鎌田さんは副理事長を務めています。

パリ在住の映像作家、渡辺謙一監督(69)の映画「我が友・原子力放射能の世紀」初公開

川村 真夏

「我が友・原子力放射能の世紀」が幅多のあかつき館で10月17日に日本で初公開されました。渡辺監督は来春の劇場公開を前にした巡回上映を「高知」で始めて、福島で終わりがかった」と言われました。幅多地域の高校生の聞き取り調査から始まった「ピキニ被爆の事実」が、時を経て世界に発信されています。

映画の中には情報公開で開示を求めた分厚い資料が全て黒塗りで返され、それを山下正寿さんがめぐるシーンがあります。全て黒塗りの事実が、政府の隠れいをすてに表しています。

渡辺監督はこの映画をフランスで制作し、ドイツ、フランス公共テレビではこの夏に放映されています。「脱原発 反原発だけでは見えない人がいる」と思っている、幅広い人を対象に制作した」と言われるように、映画は「ピキニ被爆の事実」だけでなく、福島原発事故

ピキニ被爆の事実がいよいよ世界の周知へ！

中の「モダチ作戦」で放射能を浴びた米軍の兵士の証言やフランスで時計の蛍光塗料としてラジウムを使用した女性労働者たちのガン等の健康被害、ナガサキやヒロシマの被爆生き残りの人々をまた、被爆した米軍兵士をモルモット化するような放射能研究、最終章では「ピキニ被爆の国際訴訟等事実認定を求めた「怒りの訴訟」の5章で構成されています。

アメリカも日本も権力側に不利な情報は隠れ、弱い立場の国民を犠牲にして、権力者自らは被爆をしないように安全策をとり、被爆犠牲者を歴史から抹殺しようとしています。しかし、今世界では核禁止条約の批准が進み、発効は目前となっています。ナガサキやヒロシマ、そしてピキニと核爆弾の被害は、度々もつてはいるが、批准しないことは許せないことです。幅多地域の高校生の聞き取りから判明した事実が、世界を揺るがそうとしています。

これまで長年に渡り、丁寧な検証をかさねてきた関係者の皆さん、そして



ピキニ被爆者らと対談する渡辺謙一監督(中央) 10月18日付け 高知新聞より

哀悼 奥坂 圭三 さん
2020年10月6日逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

祝 高知県文化賞受賞 山下正寿さん
高知県の文化向上に功勞のあった個人や団体を表彰する本年度の県文化賞に、高退協会員の山下正寿さんの受賞が決まりました。現職中の1983年に幅多高校生ゼミナールを結成し地域の現代史の掘り起こしをするなか、ピキニ被爆の水爆実験で県内外の漁船員が被曝したことが聞き取りで明らかになって以来、核実験問題の調査を続け、2012年からは太平洋核被爆支援センターを立ち上げ、元船員らの国家賠償訴訟などを支援し「具体的な救済方法を求めて現在もお精神的に活動を続けています。」



「はすのは」は、生活困窮者(刑と者、精神障害者、高齢者、貧困者、ホームレスなど)の生活保護、住居確保、保佐人確保、安否確認の支援を行っています。弱い立場の人を支援することは、すべての人が安心して暮らせる社会をつくること、困っている人を放置しない社会や、どんな状況にあっても人として尊厳が守られる社会が求められていること、憲法軽視・敵視の自公政権の交換、憲法を暮らしに生かしていくことの大切さなどのお話がありました。

二番目は、北原博文さんによる講演「炭坑の村からシェイクスピアへ」でした。洋画「大脱走」史上最大の作戦「いつか見た青い空」・「ピートルズ」派の乗車券「アイスタディ」「イマジン」・初めて見た英国ロイヤル・シェイクスピア劇団による劇「オセロ」など、興味関心、衝撃、英語教師だった北原さんと英語との出会いが語られました。シェイクスピアの時代は、四百年位前のエリザベス一世

のときで、イギリスが二流国から一流国へ変動して、ベストの流行で死者も多く出ていたそうです。シェイクスピアの舞台は一種の野外劇場で、作品は、三十五以上の劇と六つの詩が残されています。作品「リチャード三世」についてのレポートも用意してくださっていましたが、時間の関係で割愛となりました。是非、続きをお話していただきたいと思えます。

三番目は、小島真子さんによる「高退協 読書会の報告」でした。一九八九年に退職した坪井さんの呼びかけで一九九〇年九月から始まり、二月に一回の読書会が今年八月で一七八回を数えています。小島さんは二〇二一年一月の六七回から参加しているそうです。読書会の記録は、三十年の地連な歩みと学習を物語っています。



講師の方々
鎌田伸一さん 北原博文さん 小島真子さん 掛橋佐和さん